

2022年度

「データサイエンス+Rプログラム（基礎）」

自己点検・評価報告書

Futurize.

きみの意志が、未来。

立命館大学 教学委員会

2023年3月14日

# 科目別 履修者数・修得者数・修得率

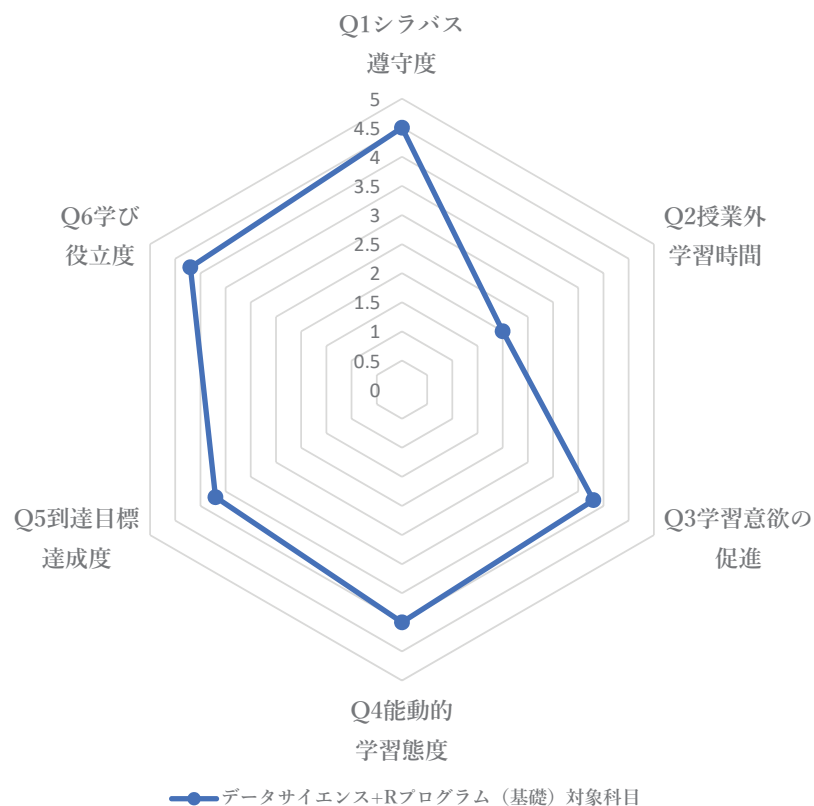
科目名	クラス	期間	開講学部	履修者数	修得者数	修得率
情報技術と社会	J	春	法/国関/映像	98名	81名	82.7%
	S	春	産社/文	278名	230名	82.7%
	E	春	経済/生命/薬/スポ/食マネ	121名	98名	81.0%
	TA	春	理工	83名	71名	85.5%
	TB	秋	理工	176名	151名	85.7%
	GV	秋	経営/政策/総心	93名	78名	83.9%
	GW	春	経営/政策/総心	206名	180名	87.4%
情報倫理と情報技術	K1	春	理工/情理	143名	137名	95.8%
	K2	春	情理	146名	136名	93.2%
	K3	春	情理	147名	138名	93.9%
IR18-AE114 Data literacy for research design	R	秋	国関	33名	29名	87.8%
Introduction to Experimentation	G1	春	情理	62名	52名	83.9%
Professional Ethics	G1	春	情理	59名	53名	89.8%
Algorithm and Programming	I	春	GLA	55名	52名	94.5%
Social Change With AI	I	秋	GLA	15名	14名	93.3%
総計				1,715名	1,500名	87.5%

# 学部別 履修者数・履修率

学部	収容定員	履修者数	1回生	2回生	3回生	4回生以上	履修率
法学部	2,880	77	48	4	2	23	2.7%
産業社会学部	3,240	197	86	30	21	60	6.1%
国際関係学部	1,440	49	20	10	10	9	3.4%
文学部	4,085	81	25	11	19	26	2.0%
映像学部	640	5	3	1	1	0	0.8%
経済学部	3,040	69	13	29	19	8	2.3%
理工学部	3,928	259	129	48	50	32	6.6%
情報理工学部	1,980	557	528	5	8	16	28.1%
生命科学部	1,300	23	8	5	5	5	1.8%
薬学部	840	0	0	0	0	0	0.0%
スポーツ健康科学部	940	17	8	4	1	4	1.8%
食マネジメント学部	1,280	12	1	8	1	2	0.9%
経営学部	3,180	213	122	39	26	26	6.7%
政策科学部	1,640	38	38	0	0	0	2.3%
総合心理学部	1,120	48	27	11	8	2	4.3%
グローバル教養学部	400	70	30	33	4	3	17.5%
合計	31,933	1,715	1,086	238	175	216	5.4%

# 授業アンケート結果

## 授業内容について



設問	回答平均値
Q1.シラバス遵守度	4.5
Q2.授業外学習時間	2.0
Q3.学習意欲の促進	3.8
Q4.能動的学習態度	4.0
Q5.到達目標達成度	3.7
Q6.学び役立度	4.2

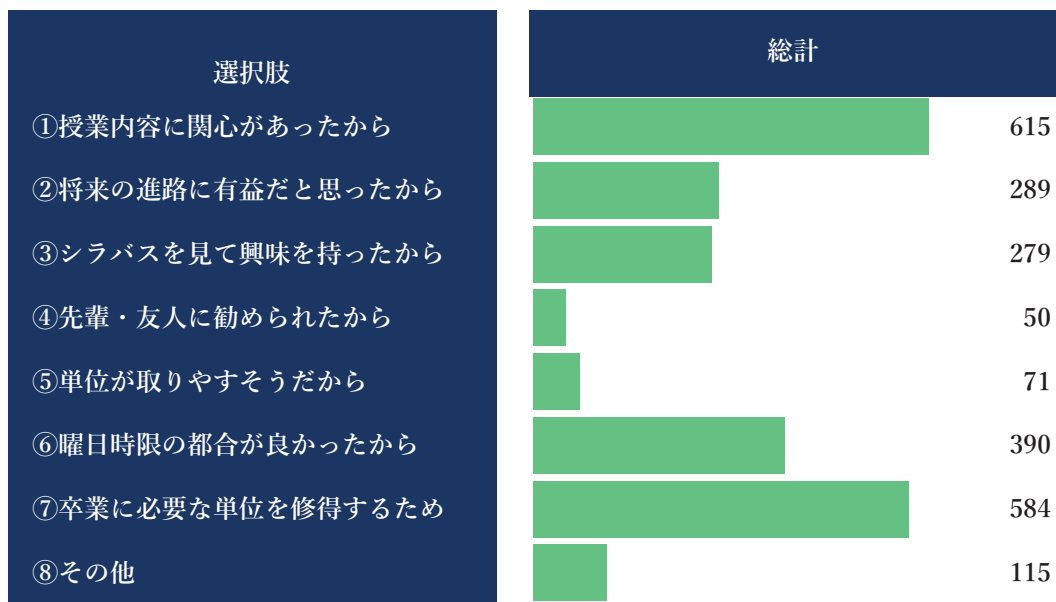
※Q1: 5点:行われた 4点:ある程度行われた 3点:どちらともいえない 2点:あまり行われなかった 1点:行われなかった  
 ※Q2: 5点:180分以上 4.375点:150分以上180分未満 3.75点:120分以上150分未満 3.125点:90分以上120分未満 2.5点:60分以上90分未満 1.875点:30分以上60分未満 1.25点:30分未満 0.625点:しなかった  
 ※Q3: 5点:そう思う 4点:ある程度そう思う 3点:どちらともいえない 2点:あまりそう思わない 1点:そう思わない  
 ※Q4: 5点:取り組んだ 4点:ある程度取り組んだ 3点:どちらともいえない 2点:あまり取り組まなかった 1点:取り組まなかった  
 ※Q5: 5点:達成できた 4点:ある程度達成できた 3点:どちらともいえない 2点:あまり達成できなかった 1点:達成できなかった  
 ※Q6: 5点:役立った 4点:ある程度役立った 3点:どちらともいえない 2点:あまり役立たなかった 1点:役立たなかった

「シラバス遵守度」「能動的学習態度」「学びの役立ち度」で高い値を示している

「シラバス遵守度」が4.5ポイントと高い数値となっているのは、モデルカリキュラムに沿った授業が展開されたことを示している  
 また、「学びの役立ち度」が高い値となっていることは、学生に今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けさせることができたと考えられる

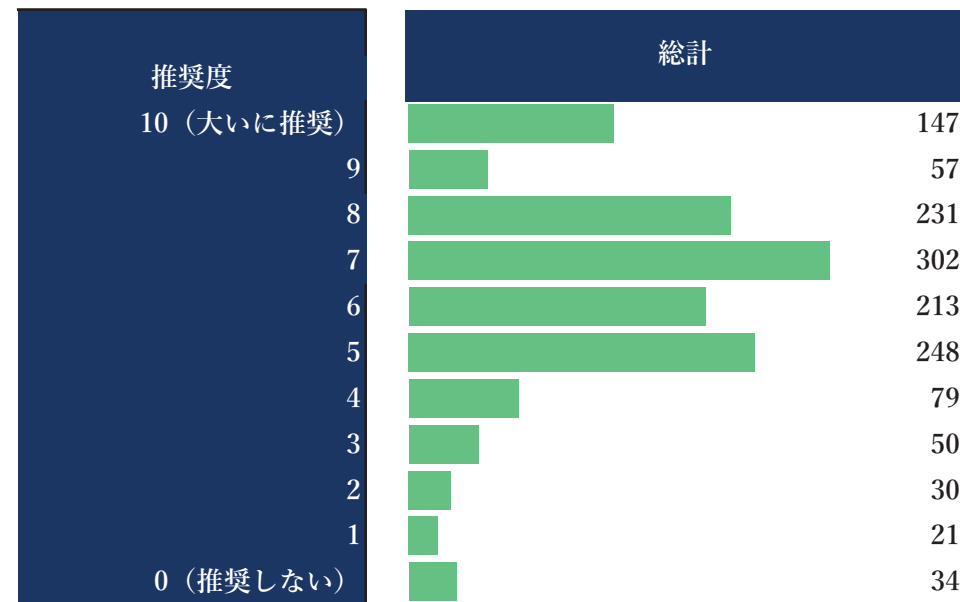
# 授業アンケート結果

## 履修動機について



履修動機については、「授業内容に関心があった」が最も多く、次いで「卒業に必要な単位を修得するため」が多くなっている

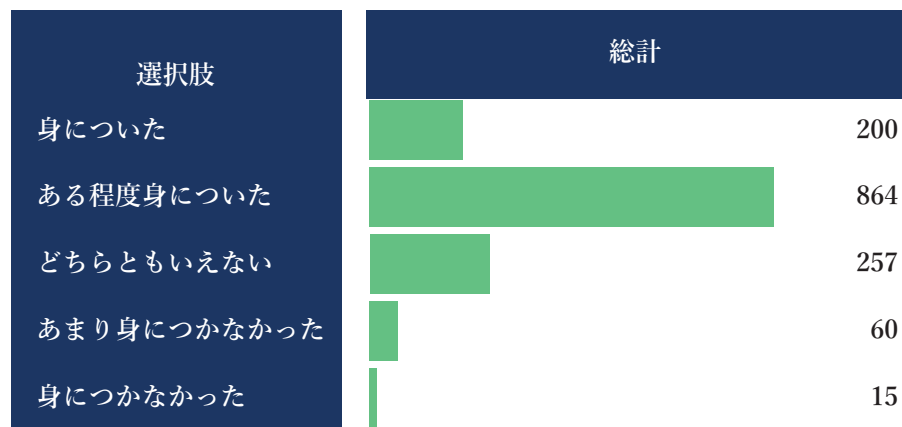
## 推奨度について



「大いに推奨」を10、「推奨しない」を0として、推奨度を計ったところ、全体の平均値が6.38となり、概ね高い推奨度を有している

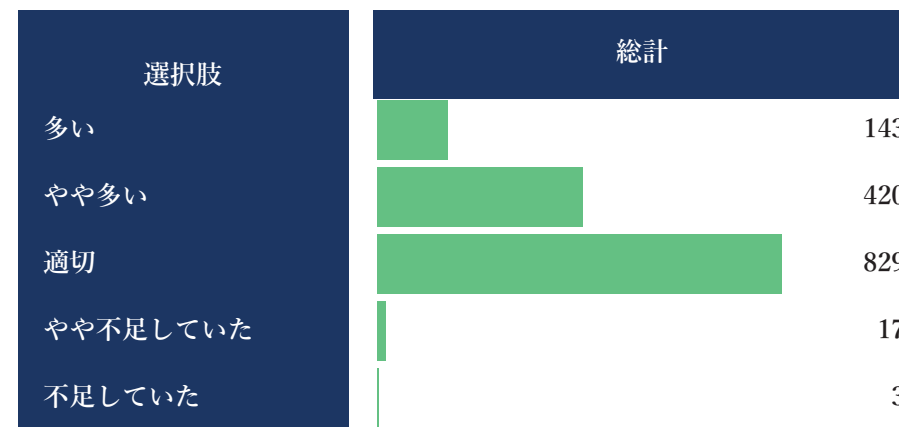
# 授業アンケート結果

## 修得度について



修得度については、「身についた」「ある程度身についた」を合わせると76.2%を占めており、修得度は高いと考えられる

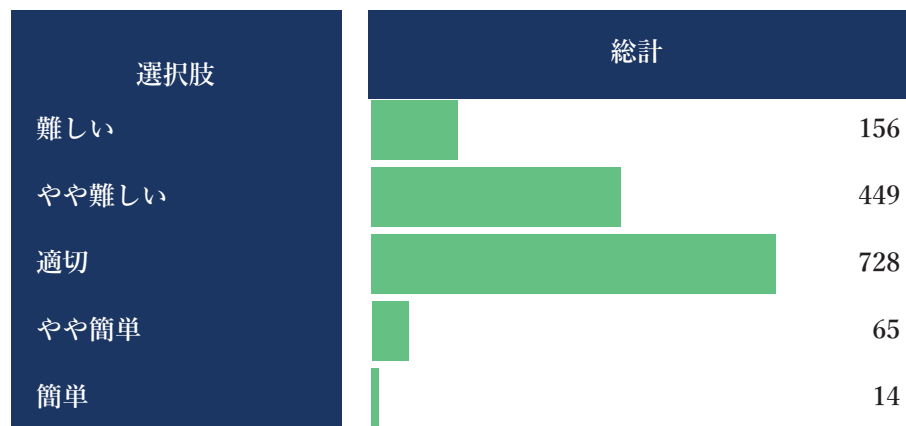
## 授業内容量について



授業内容量については、「適切」が58.7%、「やや多い」が29.7%となっており、概ね適切な授業内容量となっている

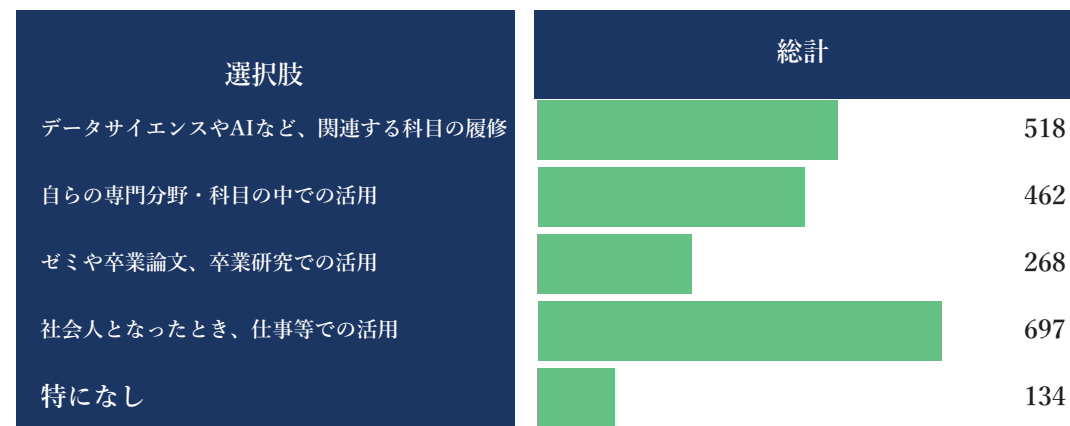
# 授業アンケート結果

## 難易度について



難易度については、「適切」が51.6%、「やや難しい」が31.8%となっており、概ね適切な難易度になっていると考えられる

## 得た知識・技能を今後どのように活かすかについて



得た知識・技能を今後どのように活かすかについては、「社会人になったとき、仕事等での活用」が33.5%と最も多くなっており、次いで「データサイエンスやAIなど、関連する科目の履修」が24.9%となっていることから、プログラムの到達目標に合致した結果となっている

# 外部評価結果

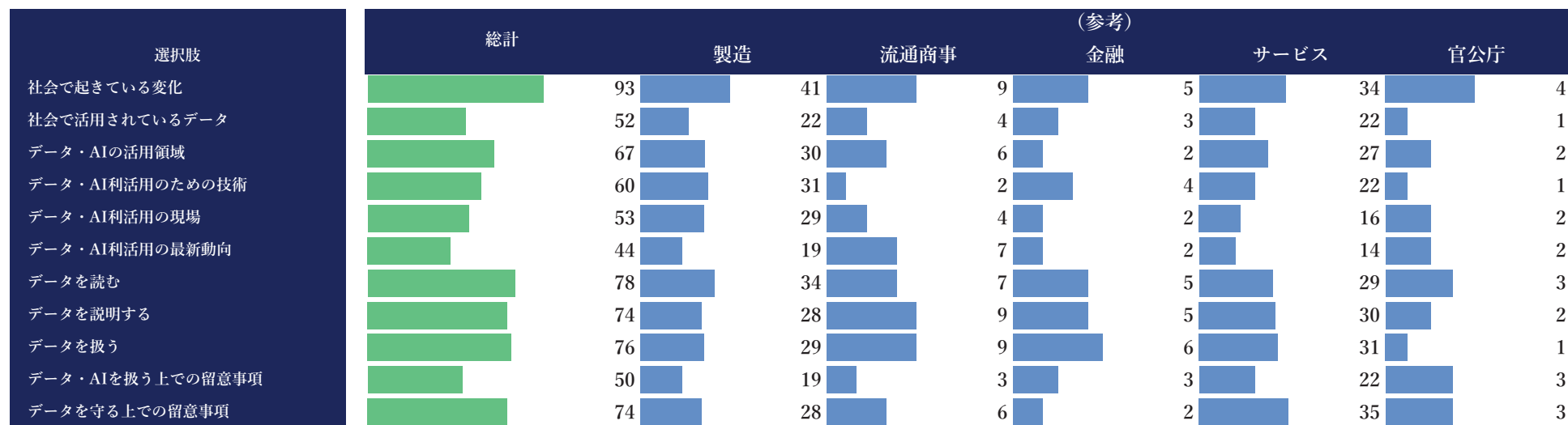
## 外部評価実施概要・目的について

数理・データサイエンス・AI教育に関わり、産業界等社会においてプログラムを通じて修得することが望ましい知識・技能を把握することを目的にアンケートを実施し、685社を対象に122社より回答を得た（回答率17.8%）

内訳：製造（53社）／流通商事（12社）／金融（7社）／サービス（46社）／官公庁（4社） 計122社

得られたアンケート結果をもとにプログラムの改善に努める

## <在学中に修得が望ましい数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能について>



産業界からは、「社会で起きている変化」や「データを守る上での留意事項」について理解し、「データを読む」「データを扱う」ことが求められている



# 外部評価結果

## <貴社において求められる数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能について>

### ■ 製造業

- ・ データ解析後に予想されるアクション内容を具体的に出せる技能
- ・ 全て学修していることが望ましい。加えてデータを扱った上でクリエイティブ発想や社会課題にどう向き合えるのか学ぶとなお良い
- ・ 統計学、特に多変量解析法をマスターすることが望ましい。基礎を理解し、周辺知識の理解へと昇華させることができればなお良いと思う
- ・ ロボットに関する知識（AIを活用した新技術）が扱われていると良い
- ・ データサイエンスやAIの歴史などに加え、実際にデータサイエンスやAIを構築するためのプロセスを学ぶことが重要

### ■ 流通商事

- ・ 販売データなど膨大なデータを扱っているため、それらを解析する力、またデータに基づき、営業戦略や経営戦略を導き出す力

### ■ 金融

- ・ 金融部門に関連するデータを処理する能力

### ■ サービス

- ・ データから読み取った事柄を言語化し正しく伝達する能力
- ・ AIを活用したサービス/製品をビジネスで扱う可能性は高い。品質保証の難しさや導入障壁など、単純な機能の良し悪し以外の難しさや課題があることを知る/考えるような講義があれば、良い

### ■ 官公庁

- ・ 社会動向に目を向け、データ情報を理解し、知識や技術を高めることは非常に有益。それと同時にリスクや守らなければならない事項を学び、社会にとってプラスになる活用法について講義を通じて学ぶことができれば、良いと考える。